

「ウクライナの人道危機への声明」

すべての人々の幸せを願われた釈尊のお誕生を祝う「孝道山花まつり」は本年、第70回を迎えました。花まつりを迎えるにあたり、釈尊のご精神に基づいて、ウクライナの人道危機への声明を発表いたします。

ロシアのウクライナ侵攻により、ウクライナでは尊い多くの生命、住み慣れた家屋など、かけがえのないものが奪われ、甚大な被害もたらされています。多くのロシア兵もまた命を落としています。これらは、すべてのいのちを尊ぶ釈尊のみ教えに反するものです。

中でも、ロシア軍による原子力関連施設への攻撃は、福島原発事故を経験した私たちにとって、看過できるものではありません。当教団の福島の信徒も原発事故によって避難生活を強いられました。原発事故と放射能汚染はいまなお収束していないのです。

こうしたロシアのウクライナ侵攻による人道危機に、遺憾の意を表明いたします。

戦争は常に「防衛」を名目に始まります。それは人々が抱く、隣国に攻められるのではないかとの「恐れ」を利用する行為です。戦争を推し進める者は、恐れをあおり、人々を戦争に巻き込んでいきます。対して、仏教の教えは、智慧と慈悲によって恐れを取り除き、物事を正しく観ることを説きます。無明（無智）が恐れを生じ、偏見と暴力の温床となるからです。偏見と暴力は、それに対する新たな偏見と暴力を生み、負の連鎖はとどまることがありません。

ウクライナの人道危機を通じて、私たちは世界の平和のあり方を問われています。すべてのいのちを尊び、誰もが安心して暮らせる社会は人類の悲願です。偏見と暴力の連鎖に加担せず、智慧と慈悲に基づき、対話と相互理解を通じた紛争の即時の解決を強く求めます。国際社会の一員としてそうしたあり方を支援いたします。

2022年（令和4年）4月1日

宗教法人 孝道山本仏殿